

R1 筑波サーキット (茨城県) エントリー台数 10台

3/5(土) 公式予選 6位 (タイム:1'02"591)

晴れ 決勝レース 5位(18周)

クラス J-GP3 (NSF250R challenge)

チーム MFD・S-SPORTS

ライダー #95 齊藤太陽

■ 齊藤太陽、ほろ苦いJ-GP3デビュー戦

2022年シーズン、日本全国のサーキットに先だち、筑波ロードレース選手権シリーズが3月5日(土)に開幕。このレースでMFD・S-SPORTSから齊藤太陽・13歳がJ-GP3クラスデビューした。昨年10月に行われたレースでは、CBR250R Dream Cupでロードコースデビューながら優勝していたが、J-GP3クラスはレース専用開発されたNSF250Rに、レース専用のスリックタイヤを使う純レーサーで争われている。世界を目指す太陽にとっては、このクラスで速くなくてはならない。筑波やもてぎで練習を重ねレースウィークを迎えていたが、生形の予想よりも太陽が早いところで壁にぶつかっていたため、マシン、タイヤの限界をつかむこと、コーナーへのアプローチを理解できるようにアドバイスしていく。

<公式予選>気温も上がり路面コンディションは上々。しかし、公式予選では目標としていたタイムを出せず6番手と悔しがる太陽。

<決勝レース>18周で争われた決勝。2列目から好スタートを切った太陽は1コーナーで3番手に上がるものの、立ち上がりで2台にかわされ5番手につける。同年代のライバルたちがしのぎを削るトップグループに何とかついていきたいところだったが、攻めきれずジリジリ離されてしまう。後方には1台ついてきていたが、10周目の1コーナーで転倒すると、その後太陽は単独走行となり、5位でフィニッシュ。課題が多く残るレースとなった。

<齊藤太陽コメント>

「今回もMFD岡本さん、生形監督を始め、多くの皆さんに応援いただきありがとうございます。またアドバイスをくださった藤原克昭さんにも感謝いたします。生形監督、WSS300を戦っている岡谷雄太選手にもアドバイスをいただいて、それを実行しようとしたのですがなかなかうまくいきませんでした。今回は、自分の中では100点中10点ですね。もっとバイクとタイヤを理解して、次戦こそ目標をクリアしたいです」

<生形秀之S-SPORTS代表コメント>

「応援してくださっている皆さん、いつもありがとうございます。今回から参戦をはじめたJ-GP3クラスは、昨年優勝したレースのマシンと排気量こそ同じですが、レース専用車両とタイヤを使っているレースになります。テクニックだけでなく、メンタルもフィジカルもまだまだでレーサーの乗り方ができておらず、合格点が出せるレースができただとは言えませんでした。レースに向けての取り組み方から見直し、今回のレースがあったからこそ次戦、さらにその次で成長したところをお見せできるようにしていきたいですね」



PARTNERS



Taica

Kobayashi

IMPRESSION

S-TRUST

sanmei

OKITSURASEN

REGIONAL CAREER 静岡



ASAGIRI BASE



静岡メンテ株式会社



live

Guma Moto tech

